

幼稚園だより

ちよだ



12月号

令和6年11月29日
千代田区立千代田幼稚園
園長 須藤 敏之

最高の文化「音楽」で育む豊かな心

園長 須藤 敏之

秋が大急ぎで去ってしまい、あっという間にコートが必要な季節になりました。それでも、園児の中には半袖で登園してくる姿が見られ、羨ましさを感じてしまうこの頃です。

11月26日、プロの演奏家をお招きしての「ヴァイオリンの会」を開催しました。ヴァイオリニストは相川麻里子さん、ピアニストは西川幾子さんのお二方です。曲目は下図の通りどれも有名な楽曲ばかりです。幻想的な世界や恐怖が表現されているという

サン=サーンス作曲「死の舞踏」を聴いたすみれ組の子からは「ちょっと怖かった。」と、素直な感想が聞こえてきました。フォークダンスでお馴染みのロシア民謡「コロブチカ」の時には、お二方の演奏に合わせてみんなでダンスも楽しみました。相川さんは「ヴァイオリンを弾きながら踊ったことがないので心配でした。」とのことでしたが、弾むようなステップをしつつも安定した音色を響かせていました。さすがプロという他ありません。会の後半には、先生たち

エルガー：愛の挨拶
モーツァルト：キラキラ星変奏曲
サン=サーンス：死の舞踏
クライスラー：アロハオエ
ロシア民謡：コロブチカ
ブラームス：ハンガリー舞曲
サラサーテ：ツィゴイネルワイゼン
ディズニーより：小さな世界

のリクエスト、サラサーテ作曲「ツィゴイネルワイゼン」の演奏がありました。聴いている私たちにもわかるほど難しい楽曲のようでした。なぜなら、相川さんが最も真剣な表情で左手指を激しく滑らせて演奏していたからです。ピアノと息の合ったこの日最高の演奏曲でした。先生たちはとても満足そうです。最後に、「千代田幼稚園園歌」を演奏していただきました。子どもたちにとって、普段味わえない素敵なヴァイオリンとピアノに合わせて歌う園歌は格別のように、いつも以上に元気な歌声を聞かせてくれました。約50分間、子どもたちは終演まで、行儀よく座り楽しそうに踊り鑑賞していました。想像を超えた本物の音楽が、そうさせたのでしょうか。

私の持論ですが、人が創り出す様々な文化の中で最も素晴らしいものは「音楽」だと思っています。人が創り出した曲に思いをこめた歌詞を載せた歌を歌い、種々の楽器で多種多様な音色を奏でる音楽は、最も人の心を揺り動かし豊かにしてくれると思うからです。

本園では、入園式や修了式の儀式的行事、年中行事、毎月の誕生会等で歌を歌ったり、通常の保育で季節ごとの歌を歌ったりしています。また、今回のヴァイオリンや真夏のフラダンス等の鑑賞会、小学校の音楽会への参加など、できる限り音楽に触れ親しむ機会を設けています。

幼稚園教育要領解説に記されている「教師などの大人が、歌を歌ったり楽器の演奏を楽しんだりしている姿に触れることは、幼児が音楽に親しむようになる上で重要な経験である。このように、幼児期において、音楽に関わる活動を十分に経験することが将来の音楽を楽しむ生活につながっていく」ことを目標に掲げ、これからも様々な音楽に親しみ、歌を歌ったり、(簡単な)リズム楽器を使ったりする楽しさを味わいながら、豊かな心を育ててまいります。



千代田幼稚園のホームページもご覧ください